

広報かわにし

発行所 川西町役場
 発行所 川西町
 (町長 中村壯吉)
 編集人 金子幸作
 印刷所 白風社
 印刷部 5部
 定価 1部5円
 人口の動き
 (5月1日現在)
 男女計 7.229 人
 世帯数 2.764 世帯

八月末をメドに改築

桶小の危険校舎―
 付属建物も本年中に

桶小学校の危険校舎改築工事は、明治四十年に建築した二階建ての古い部分延べ百三十一坪で、昭和二十九年に県の審査を受けたとき、耐力度(公立学校の建造物が、雪圧・風圧・地震などに耐える度合)が三千七十点で危険校舎に指定されていたもの。文部省令によると、耐力度が四千五百点以下の建物は、県が危険校舎に指定し、児童の保全上必要な整備を指示することになっているが、桶小学校の場合も危険校舎として改築することになったわけである。

どりこわされる校舎は、明治四十年に建築した二階建ての古い部分延べ百三十一坪で、昭和二十九年に県の審査を受けたとき、耐力度(公立学校の建造物が、雪圧・風圧・地震などに耐える度合)が三千七十点で危険校舎に指定されていたもの。文部省令によると、耐力度が四千五百点以下の建物は、県が危険校舎に指定し、児童の保全上必要な整備を指示することになっているが、桶小学校の場合も危険校舎として改築することになったわけである。

事務所(笠井永吉氏)が担当した設計説明会は四月十六日に開かれ、渡長建設・山田組・小杉土建・丸山工務所・高橋工務所の五社を指名して、二十日に競争入札を行なった。この結果、小千谷市の小杉土建工業K.K.が五百三十五万円(坪当たり二万九千七百二十二円)で請け負い、きよう十日に着工して八月三十一日までにしゅん工することになったものである。

建築予算は
 六百五十万円

これとは別な、屋体に付着する玄関・便室・宿直室の延べ八十二坪も、県が三月に審査した結果によると、耐力度四千三百点で危険校舎に指定する旨の内示がきており、これらの付属建物も本年中に改築の予定で企画がすすめられている。したがって、前記の六教室分を合わせた二百三十三坪の校舎が

小杉土建
 が落札
 建築設計は、長岡市の笠井建築



新築されるわけだが、このため桶小小学校建築特別会計は、六百五十万円(事務費三十万円を含む)という大きな額にのぼっている。

このうち、国庫補助金として九十三万八千円が見込まれているが、これは、県が示した坪当たり工事費基準単価二万六千七百円に、桶小小学校危険校舎の資格坪数四百九坪を乗じて得た額の、三分の一に対する約七十七パーセントである。ほかに、一般会計から三百六十六万二千円を繰り入れ、残りの百九十万円は学校建築債でまかなうことになっている。

成人式
 5月1日、成人(男子120名、女子97名)を祝う式が行なわれた。町の将来がやいば、明るい顔が希望にかがやいて、千手中学校にて……小林伝司撮影

国民年金法の普及指導員を設置

国民年金法普及指導員(五十名)が設置された。部落や町内に国民年金法の趣旨を普及し、あわせてこの制度を順調にすすめようというのがねらい。任期は一年で各嘱託員から推薦された人を町長が任命した。

指導員の業務内容は、①担当区域内の住民に年金制度の趣旨説明をせよ。②各種団体に呼びかけて協力を要請し、会合を利用して趣旨の説明に努めよ。③適用世帯の予備調査を実施する。④十月一日からはじまる拠出制年金の加入申し込みや手続きを指導する。⑤国民年金制度の全般について相談相手になる。などである。

指導員の氏名は次のとおり。

作文のむずかしさ

無数の機関紙が発行され、おびただしい印刷物が配られて活字がはらんしている。賢明な読者はとくにお気付きであろうが、いかにまちがいの多いことであろうか。そしてまた、どれもこれもわかりにくくて読みにくい。公文書や手紙にしてもそうだ。

「お母さん、馴染の乙女と田舎の景色を眺めにゆきます。うんと御馳走して吞ませてください。明日は仲人さんにも挨拶する心算で居ります。僕は嬉しい。」

こんな手紙を書くアンサンは、全部をかながきにしなければならぬはずである。

「わたしは、本を買いに千手へ出たら公民館の前で友人に会い、ふたりでいっしょにお茶を飲んで、うちのかんじんの用事を忘れていたが、友人と別れて本屋の前まで来たときに思いだして買って帰った。」

こんなセンテンスの長い文章もよく読まされる。本を買ったのか買わなかったのか、さんざん読者をひきまわしたあげくにやっとわからせている。

「わがよい文章」を書くことは決してたやすいことではない。むしろ、難儀な努力のいる仕事である。もし、「わかりにくい」と非難されるならば、この難儀な作業を見くびって努力を惜しんでいるからだ。「まちがいのない、わかりやすい文章」を書くことは、多くの読み手のために、ひとりの書き手がしなければならぬたいせつな努力なのである。

(千手) 横山徳蔵 相崎正平
 北村直次 渡辺理平 藤巻晃
 小林仁作 小海和男 荒海広喜
 高橋精吉 中村直治 中村義雄
 柄沢清松 黒島豊二 高橋英治
 大海 博 小林作一郎
 (上野) 上村常助 根津英作
 押木増雄 渡貫軍治 田村文作
 沢口富士雄 小海新太郎
 (橋) 田口悌治 藤巻重二

木村利雄 水落達一 滋野永勝
 滋野一男 藤巻義幸 田中義勝
 丸山欽一郎
 (仙田) 小林克治 南雲太平
 増田 忠治 川崎豊吉 桑原国光
 斉木誠一郎 高橋 栄 茂野寅一
 佐藤賢一郎 樋口虎一 小川長次
 高橋 正美 高橋秀男 登坂為治
 中条幸一郎 大野辰平 江口義一
 (西松建設) 坂本久吾

町議会報告 一 二百多万多くきた(調整) 交付金

三十四年度分専決を承認

新年度予算を議決した第二回定例町議会が、終わってわずか二週間後の四月十一日に、早くも第三回臨時議会が招集された。

付議事件は専決処分二件だけであったが、本会議終了後全員協議会が開かれ、橋小学校改築について、業者の指名、入札の日取り等を協議したほか、当面の懸案事項について報告検討された。

専決処分は、昭和三十四年度予算について一般会計五十三万八千円の追加と八十万の更正、国保特別会計において調整交付金が約二百萬増額交付されたので、繰入金八十萬を減らして、残りを予備費に入れたもので、いずれも報告どおり承認された。

グラ ンド 買収費を復活

34年最終の追加更正

年度末の三月末までに処理しなければならぬため、専決された三十四年度最終追加更正予算並びにその審議のあらましは次のとおりである。

まず一般会計について、才入としてはいいたものは栄橋調査費負担金として十日町・小千谷両市から四十二万五千円、国庫支出金として、災害復旧費・失業対策費補助・水防費補助等の追加合わせて十一万三千二百六十三円、計五十三万八千二百六十三円である。

これに対して才出は、土木費として栄橋関係の負担金二十一万四千五百円、仁田沢並びに田代町道の災害復旧費追加十六万六千五百円を、諸費の更正減十萬円と差し引きして二十八万一千円。失業対策費の追加二十三万八千六百七十三円。残りの一万八千五百九十円を予備費に繰り入れた。なお、国

国保繰入金は返上

国保特別会計は、療養給付費調整交付金が既決予算額二百萬円に對して、約倍額に近い三百九十四万三千円交付された。このため一般会計からの繰り入れ金八十萬を返上し、残りの百四十四万三千円を予備費に繰り入れたもので、累計二千六百十八万二千円となった。

保会計において調整交付金が約二百萬円増額交付されたので、一般会計から国保会計へ繰り出すこととなっていた八十萬を更正して、繰り延べ払いとなっていた同額の千手グラント買収費を復活計上した。これで三十四年度一般会計予算の最終額は一億二千二十七万四千四百五十三円となった。

橋小建築委を選出

全員協議会で協議された主な事項は次のとおりである。

一、橋小学校の改築

①建築委員に次の九名を選出。小林伝司(議長)小川駒治(副議長)田中三郎(総文委員長)和久井精一(財政委員長)富井正治(土木委員長)丸山宗太郎、須藤亮助、和田光興、滋野一郎

②指名願いのあった業者九名のうちから五名を指名した。なお、設計変更として追加された小使室・児童玄関の移築は、教室を落札した業者と随伴することとした。

二、千手小学校ステージ建設

①屋体の内部に作る②外部に作る③現在の児童便所を移転して、そのあとへ作る、という三つの案について検討した。

戸籍の窓から

うぶ声—御すこやかに

- 宮 浩行 山野田 啓一 長男
- 柄沢 克幸 沖立 照和 長男
- 五十嵐 奈穂美 野口 丑蔵 二女
- 永田 知尋 野口 幸夫 長女
- 田中 雅晴 仁田 勝雄 二男
- 池竹 映江 原田 謙一 二女
- 村越 節夫 野口 富雄 長男
- 丸山 晴美 根 惣吉 二女
- 渡辺 準二 上野 孝平 一男
- 田口 明美 木落 忠三 二女
- 羽鳥 和則 木落 副太郎 長男
- 羽鳥 雅彦 仁田 一郎 二男
- 小海 深 上野 貞二 長男
- 押木 国美 元町 初太郎 長女
- 小堀 勝男 小白倉 多平治 二男
- 登坂 浩 岩瀬 桂作 長男
- 中条 陽子 大倉 石平 三女
- 小川 和也 岩瀬 忠良 長男
- 高橋 一史 高倉 茂夫 長男
- 登坂 文雄 岩瀬 博男 二男
- 中村 裕子 小白倉 晴 長女
- 佐藤 好子 小脇 清太郎 長男

たかさご—御田濱に

- 新婦 渡辺 和栄 新町
- 新婦 渡辺 勝子 鶴吉から
- 新婦 須藤ハルノ 下原
- 新婦 小林 博英 藤沢から
- 新婦 山田 保子 仁田
- 新婦 山家 五作 木落から
- 新婦 平野 幸作 四郎兼
- 新婦 中田 晶子 信濃町から
- 新婦 丸山 栄一 高原田から
- 新婦 丸山 トキ 高原田から
- 新婦 黒島 善一 伊友
- 新婦 雨雲 トヨノ 田中から
- 新婦 村越 正 野口

ふるさと

- 新婦 星名 スミ 伊友から
- 新婦 中村 清吉 坪山
- 新婦 中村 キヌ 坪山から
- 新婦 丸山 甚作 野口
- 新婦 星野 スズエ 真人町から
- 新婦 小林 稔 中屋敷
- 新婦 山田 和子 仁田から
- 新婦 清水 増二 木島
- 新婦 小川 玲子 赤谷から
- 新婦 滋野 行正 仁田
- 新婦 永井 とみ 川口市から
- 新婦 高橋 健次 高倉
- 新婦 高橋 ツマ 室島から
- 新婦 大野 喜教 大白倉
- 新婦 片桐 光枝 大白倉
- 新婦 高橋 孝平 高倉
- 新婦 高橋 フジ 高倉から
- 新婦 高橋 秀男 赤谷
- 新婦 高橋 エミ子 赤谷
- 新婦 中川 俊男 仁田
- 新婦 柄沢ハルノ 沖立から
- 新婦 村越 昭 野口
- 新婦 湯本 幸江 群馬県から
- 新婦 平野 幸治 四郎兼
- 新婦 高橋 文江 寺尾から
- 新婦 齊藤 計司 上野
- 新婦 田村 ヨキ 上野から
- 新婦 北村 豊作 中央町
- 新婦 林 スミエ 栃尾市から

昇天—御めい福を祈る

- 高橋 チヨ 永久公舎 四九
- 数藤 ミヨ 沖立 八一
- 丸山 トミ 新町 七八
- 渡辺 平蔵 新町 八三
- 渡辺 秀蔵 新町 八〇
- 田中 トク 下平 八五
- 茂野 ミヤ 藤沢 八二
- 小林 井五郎 中仙田 四八
- 高橋 キサ 室島 五七
- 佐藤 コマ 藤沢 八〇

例年のとおり出かせぎ者が帰ってからのため、成人式は五月一日に行なわれた。式次第の細部は承知していないが、おそらく例年と同じような行事が、同じような順序で行なわれたことと思う。成人式も十二年目ともなればニュースとしての価値が薄くなるのは当然で、特別な事件でもない限り一般の関心をひかないのは不思議でもない。ことしの成人式も、参列者の中から祝杯の元気で役場屋上の半鐘を打ち鳴らすというツワモノが出なかったならば、すっかり忘れ去られていたかも知れない。結果的には忘れっぽい世間に対する皮肉な警鐘となったわけだがこれはまた、おとなの仲間入りをする日の象徴的な仁義であったかも知れない。というのは、秩序の無視と無軌道とが一種のヒロイズムとして評価され、大物として必要な資格であるかのような錯覚がおとなの世界で幅をきかしているといは言いが切れないからだ。来賓の祝辞や郷土出身代議士の祝電などからは汲み取り得なかったものを、青年たちはおとなの現実の行動から敏感に感じ取る。二百名余りの中の一のたつた一人の行為で全般を評するつもりはないが、ことしの成人該当者が小学一年生から六三制で育った最初の若者であることも、この事件と無関係ではないかも知れない。女子の服装が年々華美になるというところ、生活水準の向上と手放して喜んでいかどうか。警鐘事件をきっかけにみんまで考えてみたい。(M)

サラリーマンの.....松田氏(西松建設)が最高

「勤め人はいいな」とうらやむ人は多い。が、ひとくちに「月給取り」といってもピンからキリまであるわけだ。学歴・経験・特技・能力などによって、それ相応のサラリーが支給されるからである。ところで、町のサラリーマンのふところをいはいはどうか。税務の窓口をのぞいて見た。

所得倍増は夢か

「ことしの課税標準となる大事な書類だ」という根津係長から、昭和三十四年度の給与支払い報告書を見せてもらった。これによる

と町の俸給生活者は一千二百人、いわゆる「勤め人」と呼ばれる人の数である。うち、年額五十万円以上の所得者が四十四人もあったぞくに「長」と名のつくようなエラ方である。三十万円以上で、五十万円以下の人は二百人を数えたたいへん失礼ないかたかもしれないが、あとは課税標準にも達しない人が大半で、それぞれに安い月給をヤリクリしているわけだ。だれかさんのいう「所得倍増」は夢なのであろうか。

役場と農協が最低

はぶりのよいのは何といつても民間企業だった。昨年は岩戸景気といわれただけに、給与もぐんと良かったことがわかる。官庁(役場と農協は失格)では、勤続年数の長い人たちが圧倒的に上位を占めていた。年間の最高所得者は、松田 清(西松建設株式会社信濃川出張所長)氏の百二十万円、最

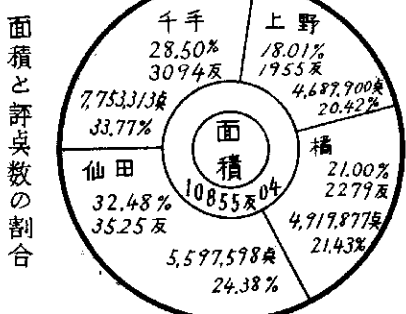
低はなかなかつかみにくかったが役場と農協の職員が五万円ラインをさまよっていた。

事業所別にこまかく分析してみても、ここに掲載することはさしひかえよう。ちなみに、役場職員の最高(橋支所長)は年二十九万七千円、係長クラスの平均所得は二十七万七千円である。

月給取りの三十傑

昨年の上位所得者は次のとおりである。(単位は千円)

松田 清	120.0	西松社員
登坂 緑蔵	98.5	仙診所長
長谷川 菊雄	86.3	発電区長
森永 健市	83.3	橋診所長



星名 杜一	八三三	北銀課長
杉村 政利	八〇一	西松社員
丸山 准二	七八一	松屋社長
永井 吉平	七八〇	白倉校長
中島 顕郎	七六五	西松社員
藤本 秀雄	七四七	中仙田小
富永 勇	七三五	千小校長
加藤 剣次	七二八	西松社員
坂本 久吾	七二六	西松嘱託
登坂 精一	七二二	仙中校長
種村 清作	七二〇	上小校長
進 大睦	七〇五	西松社員
酒井 信四郎	六八六	千手局長
樋口 首七	六八五	上中校長
丸山 英朗	六八五	松屋専務
鏡村 久司	六六六	赤岩校長
樋熊 恆平	六五〇	千中校長
白井 哲	六四〇	国鉄助役
杵淵新治郎	六三九	橋中校長
中村 壮吉	六一八	川西校長
安藤 健蔵	六〇八	上小校長
安藤 敬喜	六〇五	西松社員
安里昭一郎	五九四	川崎源院
有坂 千秋	五八四	仙中教頭
大井 正司	五八一	仙田局長
加藤 越郎	五七三	仙小校長

明年から公平な課税

田の評価調査終わる

昨年八月以来、評価補助員(平野栄二氏ほか五名)を中心に行なってきた、固定資産の評価(田)が終わった。

町の固定資産税は、これまで旧町村ごとに評価したものを基準に徴収していたため、税率が同じでも価格がまちまちという矛盾にやまされていた。そこで、統一した公平な評価の必要に迫られ、家屋に次いで田の評価がとりあげられて、一筆ごとに細かい調査が実施されたもの。

この結果、帳簿上は原野・山林畑などになっていた土地が五百三十五ヘクタール(五十三町五反)も田になってきたことがわかり、逆に今まで田だと思われていた場所が、実際は二百四十四ヘクタールも荒地や畑になっていたことが明らかになった。差し引き二百九十一ヘクタールの田が確認されたことになる。

最高と最低の差が四倍であった評価価格も八倍となり、良い場所と悪い場所の差ははつきりして、三十六年度から公平な課税がなされるわけである。自然と経済条件で一筆ごとの評点数が格付けされた

が、明年二月までに評価価格を確定して、三月一日から二十日まで縦覧することになっている。結果をよく確かめて、異議があったら固定資産評価審査委員会(丸山豊太郎委員長)に申し出てほしい。

戸籍の窓から

うぶ声 御すこやかに

木村美佐子	中仙田 昭一	長女
小林 欣也	中仙田 享	二男
増田 稔	室島 勝治	長男
高橋 明子	室島 清治	長女
佐藤 勝巳	小脇 栄一	長男
高橋美恵子	田戸 三代治	長女
登坂 幸保	岩瀬 定雄	二男

昇天 御めい福を祈る

小林 マキ 中仙田 六六
高橋 忠平 高倉 七〇
登坂 トラ 岩瀬 八五
登坂ミヨ 岩瀬 七五(四月分)

今どきの若い者

(その一)半鐘の音に驚いて飛び出した。役場の屋上で数人の若者が騒いでいた。かれらのいたすらだつたのである。

(その二)某停留所前でビールのラツパ飲みをし、通行中の若い女をかからかっている一団があつた。パスがきたトタンにその青年たちは飲みかけのビールビンを店さきにたたきつけて行った。「今どきの若い者の気持ちはわからないテ。」といながらあとしまつするS商店主の

町の声

放し飼いの犬があげられまわっていて困る。先日もかみつかれた人を自撃した。かわいそうにスポンもスポン下も破れ、傷口に菌のあとがついて赤くハレあがっていた。人さえ見ればかみつく犬もあると聞く。わたしも不注意から三ワトリをやられてしまった。法によれば犬はつないでおくことになっているはず、町当局も大コソシに連絡して、ニクイ犬は見つけし

橘青年学級を紹介

NHKが全国放送で橘青年学級が、NHKラジオで全国で紹介されることになった。県社会教育課の山田神哉氏を通じてNHKから依頼があったもの。昨年春に結成した橘青年学級父兄会が、がりっぱに運営され、それが全国でも珍しいケースとして注目されているわけである。十六日ごろプロジュサーが来町して現地で録音、本月下旬に第二放送(青年学級の友へ)する。

☆庁内人事☆

◎馬場光雄氏(元町)が、四月十六日付で臨時職員に採用された。社会係で国民年金を担任している◎高橋アサさん(室島)が四月いっばいで退職した。仙田の保健婦として十年間も活躍してくれた人に殺すことだ。(上野・T生)

◎お答え、狂犬病予防法や新編県飼犬取締条例によると、特別の場合のほか犬はつないでおくことになっています。野犬捕獲人(犬コソシ)も毎月一回まわって来ますから、放し飼いの犬を見つけたら役場か保健所に連絡してください。ただし、いくらあばれ犬でも捕獲人が来たときにつないであげばどうすることもできません。お説のような場合は被害者が告訴すれば事実を調査し、場合によっては殺処分命令が出されるでしょう(国保衛生係・押木良作)

ブラジル通信 ②

「ブラジルに行きたい」という青年が多くなった。今秋もまた、仙田から二名の青年が渡伯することになりそう。在ブラジルの丸山さん(根探出身)と金子君(岩瀬出身)から、実家あてに届いたたよりを紹介しよう。ブラジルはいま夜明けだ。とのことである。

南半球は今が秋

金子 国栄

前略、ブラジルは今が秋、日の短くなったことが強く感じられます。お茶の青芽も少なくなり、仕事もだいぶ暇になりました。

工場に働いている現地人は、日本人に比較すると知能程度が低いようです。ほかく日本の工業の進んでいることを教えますと、いかにも不思議でならない。といった顔を、「そんなにすばらしい日本から、なぜこんなに文化の遅れたブラジルにやって来たの」と聞きます。気の毒なことに、彼らは自分の国の良さを全然知らないのです。ほかのポルトガル語も、まだそれをよく説明するほど上達していません。

三月から町の学校に入学しました。現在のほくは、勉強するのが最も楽しいことのひとつです。いつか役立つのですから、落ちついて基礎からやってみようつもりです。日本字の新聞は、むずかしい古い漢字をたくさん使っています。リオデジャネイロに代わって、ようやく完成したブラジリアが新しい首都になりました。ブラジルはいま、まさに日本の明治維新に相当するところでも過言ではない

あるのです。もちろん、ブルジョアになるための準備というわけでしょうかね。ほんの少しですが金を同封しました。後略

熱帯の果実たわわ

丸山 静男

お変わりございませんか。渡伯してから四年に近い歳月がながれました。わたしはちもみんな元気で、希望にもって働いております。優子と修二は、四キロの道を毎日ブラジル学校に通学しています。日本と違って設備も悪く、周囲も教育に無関心で困ります。都市といなかではうんと差があります。四年制ですが、進級試験(修二は一番でした)にパスしなければ何年たっても卒業できません。ですから卒業する子どもは少ないよう

雪と寒さに、じつと耐えてきたホオジロ・ヒヨドリ・ムクドリなどが鳴きはじめました。なわしろ準備の田の上をツバメが飛び、ウグイスが転鳴の初練習をはじめたのは四月の初旬です。やがて冬鳥が旅立ち、いろいろの夏鳥が飛来して、春の曲をかなでながら営巣する日もまじいことでしょう。

愛鳥週間に思う

高橋 友義

野鳥は木の芽や作物を食い荒らし、害鳥も多いという人があります。しかし、鳥類学者がその食性を調査研究した結果によりますと、小鳥でさえ一日四キロ平方以上も活動し、驚くほどの害虫類を採食していることがわかります。自然の脅威や対人的な制約

このほか、心ない人たちの捕獲

です。少くも独立がおくれている、金がかかっても、都会の学校に出したいと思っています。わたしはいま、一万一千本のカフエー(コーヒーの木)を請け持っています。木を見ただけで、「ことしは何歳とれるか」ということがわかるようにならないと成功しないそうです。去年は失敗しましたが、ことしこそは収益をあげるつもりです。少くも送金の送金

わたしたちの植えたパイナップルやバナナも、もうふんだんに食べられるようになりました。家のすぐそばに浜海川ぐらいの川があり、子どもの釣って来た魚が夕飯のオカズになります。近くに繁茂する野生のミカンの木が、ヤカンのように大きな実を見せてくれます。これに炭酸と砂糖をまぜて飲む

もかなりの数にのぼっています。野鳥は、大自然の山林原野へ自由に放つてこそ生きがいもあり、人類と共存する豊かな環境が作られるわけです。営巣・産卵・育すうがはじまるのはこれからです。小鳥たちの大仕事を助けるために、巣箱を設置したりしてや

鳥週間に五月十日から十六日まで(一)を設けたりして保護に力を入れています。その効果はまだまだのようです。小中学生のみならず、小鳥の巣や卵やヒナなどをおもしろ半分

野鳥をかわいがってください。(筆者は教育係長・野鳥研究者)

むと、サイダーよりもよい味です。いつも家族に言っていることですが、日本の炭酸で働くよりも、根深で古い家柄を受け継いでゆくお前(忠司さんのこと)よりも、どれほどよいかわかりません。みなさんどうぞお元気で...

丸山さんは根探の門家に生まれた人。開拓団で渡伯し、戦後引き揚げてから常盤炭鉱で働いた。三十一一年六月に一家六人で渡伯、現在はパラナバイ州レアル耕地(リオデジャネイロ市の近辺)の、日本人経営農場に働いている。実家は弟の忠司さんが継承した。

季節保育所を開設

町内十一カ所を開設する。本月下旬から六月上旬の所が多い。入所は就学前の子どもたちで約五百人、オヤツもあげるからどうぞ。

青年婦人会長さま

川西町青年団連絡協議会長は田中義勝(下原)君。婦人会連絡協議会長は田中直江(下原)さん。

戦没者の慰霊祭

上野地区の慰霊祭は五月十六日長安寺で行なう。干手と橋は九月の予定。仙田は八日に終わった。

伐木をした人に

木を切った人は、役場に木材引取税の申告をしてほしい。申告書用紙は税務係にある。怠ると罰金

ラジオ農業学校

一六日 P.C.P.の使いかた。中ヒナの育てかた。二五日 保存食の作りかた。六日 さいまいも作り。稲生育調査のしかた



元町 鉄平
○明るさのまだある空や春の星
○嫁連る道をはなれて畦をぬる
小白倉 凡石
○漬物にはや酢味のきて夏近し
小白倉 文子
○水温むいまだに覆ぎゆるされず
小白倉 玉章
新しき庫裡に燕のそだちけり
小白倉 緑風
ぬか焼の煙りとけむ春がすみ
下原 仁子
桜散り果てて静けき旧家なる
大倉 洋石
木の芽摘む髪に降る陽のにおいけり

☆ ☆ ☆

◎「頭おれが固定して悲しい」と柏樹先生が申しました。ふるって応募してください。○印の句には賞品をお上げしています。
◎前号既報の農業機関紙は、「農業かわにし」として発行(六月一日から一カ月おき)することになりました。

編集後記

◎農政情報や農業技術・生活改善などをとりあげて全農家に配布いたします。本紙のようにかわいがってください。
◎さくらが咲き、散っていきました。青葉が目にしみます。さわやかな五月の風...もくれんの花がにおいました。
瓶にさす藤の花房みじかければ たたみの上にとどかさげりけり (子規)